



当初、公民館が事務局を担当、学校の先生方、地域のスポーツ経験者及び地域の理解者が指導者となり、三位一体で活動がスタートしました。平成17年の市町村合併を前に事務局や会計・広報などを保護者が担当するようになり、公民館は助成金交付やイベント運営等を通じてバックアップしています。

下の打ち合わせのため、指導者と保護者が月1度行なう話し合いにより行っています。特に「運営委員会」では、基本的事項を協議するだけでなく、事務局だけでは解決し得ない事の相談や、活動報告により団の活動に対する相互理解に役立てています。このような場を設けることにより、学校や地域住民の関わり方が明確になり、協力を得やすい環境づくりに繋がっているのです。



大会参加の様子

また、地区の区長会長を長とする「育成後援会」には後援会費をお願いしており、活動費においても地域住民の理解や協力のもとに支援を頂いています。

中学生以上も団員として受け入れ、リーダーとして活動の場を作り、研修会や国内交流、国際交流にも積極的に参加させて育成に努めています。その成果として、団員やリーダーを経て、指導者や団の役員・保護者として現在の活動を支えている人がた



地域との交流 しめ縄づくり

地域で子どもを育てる仕組み

スポーツを通して青少年の健全育成
地域に支えられ、楽しい活動で

昭和49年5月、公民館・学校・地域住民の協力の下、子どもたちが日頃のスポーツ活動などを通して、心身を鍛錬し、健康な体と心を養って成長することを目標として、河野スポーツ少年団は結成されました。

「運営委員会」では、基本的事項を協議するだけでなく、事務局だけでは解決し得ない事の相談や、活動報告により団の活動に対する相互理解に役立てています。このような場を設けることにより、学校や地域住民の関わり方が明確になり、協力を得やすい環境づくりに繋がっているのです。

くさんいますが、これも河野スポーツ少年団の誇れるところだと思います。



松山市(旧北条市)
河野スポーツ少年団顧問
久保田 允千

スポーツを通じた健全育成

主な活動としては、ソフトボール・サッカー・ミニバスケケット・バレーボールの4種目に小学生男女約100名が取り組んでいます。種目別の指導者のもと、小学校を拠点にして、土・日を中心に活動を行い、大会や交流試合などに参加しています。

スポーツ活動で練習した成果として「体力が向上する」、「スポーツが上手くなる」、「良い結果が得られる」など達成感や満足感、スポーツの楽

しさを味わうことが挙げられます。加えてスポーツを継続して行い「生涯スポーツ」へと繋げ、健康的な生活習慣を身につけてくれればと思います。そして「強くなる・上手くなる」ことも大切ですが、活動を通して「努力することの大切さ」、「ルールやマナーを守る」、「協調性や社会性を身につける」ことを学び、団の卒業生でもある偉大な先輩、女子マラソンの土佐礼子さんのように成長してくれることを願っています。



みんなで考えよう！

地域との交流とリーダーの役割

団内で行われていた駅伝大会を、平成元年の河野小学校創立百周年を記念し、当時の北条市内の団を招いて、発展的に規模を拡大しました。今では北条地区の各団との共催で、県内から約50チームが参加して行われるようになりました。地域の方々の沿道からの声援は子どもたちの走る力となり、一生懸命走る姿は地域の方々々に元気を与えています。参加した子どもたちにとっては、日頃の競技種目以外での活動の機会や、子ども同士の交流の場となっています。地域との連携では公民館の行事などに積極的に参加・協力をしています。特に公民

館夏祭りや歴史・文化祭には、来場した子どもたちが楽しめるようにゲーム等ができるブースを構築しており、元気な子どもたちの姿が地域の明るさや活気の源になっているようです。また、行事への参加だけでなく、清掃活動など地域との繋がりを大切に、地域に支えられて活動しています。

種目や男女の別を問わない団全体の活動として、キャンプ、年2回の体力テスト・しめ縄づくり・奉仕活動・体験活動・地域活動などに積極的に参加しています。特にキャンプは、スポーツ少年団（小学生・リーダー・保護者）、小学校PTA、地区愛護班及び公民館が合同で開催し、日頃は団に参加していない子どもも含め、小学5・6年生が約100名参加します。保護者は時間帯を割振って、子どもたちが行う食事の支度や、体験活動の指導・手伝いを行って親子の触れ合いを楽しんでいます。また、キャンプファイヤーはリーダーが担当



食事の支度は親子の交流

で、リーダー自身の研修の機会にもなっています。ここで、河野スポーツ少年団の特筆すべきリーダー制度について触れてみましょう。中・高校生以上のリーダーの活動は、団内行事の運営協力、県内外の研修や交流活動への参加、国際交流活動に参加するなど、小学生のお手本となるため、リーダーとして資質の向上に努めています。今までに日本スポーツ少年団の日独同時交流に指導者1名とリーダー16名、日中青少年スポーツ交流にリーダー1名が派遣され、学んだことを団活動に生かしています。このような活動が評価され、平成22年には「社会貢献青少年」として内閣府の特命大臣表彰を頂きました。

終わりに

団員も多い時は150名を超えていましたが、少子化などで児童数が減少、当初は対象年齢が4年生からでしたが、1年生からに拡大しました。今後、スポーツ少年団活動を通して青少年の健全育成に努め、それが地域の人材育成につながれば、地域で存在を認知され地域に支えられ、地域と共に良い活動を継続できるものと思えます。楽しく向かい合っていきたいと思えます。